

5. 農村の生活環境・農業生産環境のバリアに対する住民の評価

[要約]農村環境のユニバーサルデザイン整備を進める上で、生活環境・農業生産環境のバリア（障壁）に対する高齢農業者等の不満が高い事項は、圃場への進入路が急坂、集落内に休憩所がない、営農に関する情報入手の機会が少ない等である。

農業工学研究所・農村計画部・部長		区 分	技術及び行政
連絡先	029-838-7509, kudo@affrc.go.jp	分 類	参考

[背景・ねらい]

担い手の高齢化が進む中で、農業の生産性を維持するためには、高齢農業者や女性農業者のように体力的にハンディがある人も活動しやすい圃場や施設等の環境整備（ユニバーサルデザイン化）が必要になる。本課題では、農村の生活環境・農業生産環境の最適なユニバーサルデザインについて検討するために、担い手の高齢化が進む農山漁村において、高齢農業者や女性農業者のように体力的なハンディがある人をはじめ、すべての人が活動しやすい環境整備（ユニバーサルデザイン化）に関する現状の実態や住民のニーズを把握する。

[成果の内容・特徴]

1. 農業者への面接調査や都市住民も参加するワークショップを通じて、農村の生活環境・農業生産環境に関するバリアの内容を抽出した（表1）。その上で、抽出したバリアを基に、文献等で指摘されるバリアも含め整理し、中山間水田地域3地区、平地畑作地域1地区の計3地区252戸690人を対象に、それらのバリアに対する住民の評価についてアンケート調査を実施した。回収票数は285票で回収率は41%であった（表2）。
2. 農村の生活環境のバリアへの住民の評価については、バス等の公共交通機関が少なく不便、小さい子どもを預ける保育施設が少ない、ベンチ等集落内に気軽に休める休憩所がない等、整備不足のバリアに関する不満が高い（表3）。不満内容と属性との対応をみると、性別では、女性は買い物や通勤・通学時の急な坂道の不満が高く、年齢層別では、60歳代で公衆トイレがない、小さい子どもを遊ばせる場所がないことへの不満が高い。困難動作の有る者では、小さな段差や急な階段への不満が高い。
3. 一方、農業生産環境のバリアへの住民の評価については、同じ姿勢を強いられる作業が多い、あぜの法面が広く段差が高く危険、圃場が分散していて疲れる、営農の基礎的な知識を学習する機会がない等、作業方法や水田管理、情報入手に関する不満が高い（表4）。不満内容と属性との対応をみると、性別では、女性は機械の操作がむずかしいという不満が高く、年齢層別では、50歳以下の若い世代は農作業技術等の専門情報の入手、70歳以上の高齢世代は重たいものを持つ農作業や大型機械を扱う農作業への不満が高い。困難動作の有無では、同じ姿勢を強いられる作業や重たいものを持つ農作業、機械の操作がむずかしい等への不満が高い。

[成果の活用面・留意点]

本課題の成果であるバリアの内容と属性との対応関係を考慮することにより、農村環境整備を行う際に、より効果的な整備が期待できる。

[具体的データ]

表1 農村の生活環境・農業生産環境に関するバリアに関する聞き取り調査・ワークショップの結果概要

地区	愛知県額田町ZK地区	愛知県額田町MG地区	愛知県三好町MS地区	富山県氷見市H地区
地域区分	中山間水田地域	中山間水田地域	平地畑地地域	中山間水田地域
調査方法	農家に対する面接調査	農家に対する面接調査	農家に対する面接調査	都市農村交流ワークショップ
対象者（参加者）	60代男女計3人、30代女性1人	60代男女計3人、50代女性1人、40代女性1人	70代男女計2人、60代男性2人、40代男女計2人、30代女性1人	都市住民7家族18人 農村住民のべ60人
実施時期	2004年8月	2004年8月	2004年12月	2004年11月
生活環境に関するバリアへのコメント	・子どもたちを遊ばせる場所が少ない ・育児期の相談相手が少ない	・地区面積が広い割には、図書館等の施設が少ない ・幼児を遊ばせる公園がない	・農業と育児の両立がきつい。乳幼児を預ける施設がない ・子どもとの時間がとれない	・高齢者のためのベンチがほしい ・訪問者のための公衆トイレがない ・中心地までのバスの本数が少ない ・案内板が少ない 等
生産環境に関するバリアへのコメント	・草刈り作業中に手を切ったことがある	・圃場が分散している ・家から圃場までに急な坂が多い ・大型機械の転倒には気をつける ・刃物など、大きな障害につながる作業が多い ・なすのコンテナが大きくて重い等	・トラクターの後進時に足を切った ・防除の際、合羽を着ると暑い ・肥料袋が重い ・脚立の一番上に立つときが危険 ・剪定の際に、はしごから落ちる ・機械で身体を挟まれる ・同じ姿勢がきつい 等	・誰でも農作業に参加できるマニュアルがあるとよい

表3 農村の生活環境に関するバリアの属性別加重得点平均値

バリア項目	得点平均値	全体 N=285	男性 N=150	女性 N=135	20～50代 N=130	60代 N=77	70歳以上 N=71	困難有 N=145	困難無 N=105
バスなどの公共交通機関が少なく不便		3.21	3.16	3.26	3.27	3.29	3.09	3.25	3.14
小さい子どもを預ける保育施設が少ない		2.90	2.92	2.89	2.90	3.08	2.70	2.83	3.01
ベンチなど集落内に気軽に休める休憩所がない		2.86	2.89	2.83	2.71	3.13	2.88	2.95	2.74
安心して小さな子どもを遊ばせる場所が少ない		2.82	2.86	2.77	2.76	3.14	2.55	2.71	2.96
親戚や友人がきたときに泊める施設がない		2.81	2.92	2.69	2.86	2.91	2.59	2.83	2.78
集落内に案内表示板が少ない		2.77	2.83	2.70	2.69	2.83	2.91	2.81	2.72
家の中に小さな段差が多くつまづきやすい		2.63	2.58	2.69	2.48	2.85	2.72	2.83	2.36
誰でも自由に使える公衆トイレがなくて不便		2.53	2.61	2.44	2.38	2.85	2.50	2.58	2.46
買い物や通学に、急な坂道が多く大変		2.52	2.37	2.70	2.60	2.51	2.43	2.52	2.53
階段が急であぶない		2.50	2.52	2.48	2.41	2.69	2.52	2.74	2.17
暮らしに関する新しい情報や専門情報が得にくい		2.47	2.38	2.57	2.45	2.48	2.51	2.46	2.47
和式のトイレなどで使いにくい		2.02	2.06	1.98	1.90	2.33	1.93	2.14	1.87
ほ装されていない道が多く歩きづらい		1.71	1.63	1.81	1.63	1.84	1.77	1.78	1.63

※各質問に対して「おおいにそう思う」5点、「まあそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまり思わない」2点、「そうは思わない」1点を与え、属性別の加重得点平均値を求めた。表中の網かけは、5%で有意差がある。濃い網かけは、そのうち平均値の大きい属性である。全体で得点の高い方から並び替えを行っている。困難有りについて、アンケートで「本や新聞紙など小さな字が読みづらい」等の5項目に関して困難動作が有ると回答があったものを困難有りとした。表4も共通。

表2 アンケートデータ概要

	ZK地区	MS地区	H地区	計
戸数	63	111	78	252
配布数	178	333	179	690
回収数	78	137	70	285
回収率	43.8	41.1	39.1	41.3
性別(%)				
男	50	56	49	53
女	50	44	51	47
年齢構成(%)				
<60	41	46	50	46
60代	27	20	40	27
70<	28	32	7	25
農業経験(%)				
あり	79	92	83	87
なし	15	4	17	11

表4 農業生産環境に関するバリアの属性別加重得点平均値

バリア項目	得点平均値	全体 N=204	男性 N=117	女性 N=87	20～50代 N=84	60代 N=65	70歳以上 N=49	困難有 N=126	困難無 N=75
同じ姿勢を強いられる作業が多い		3.19	3.15	3.24	3.14	3.17	3.25	3.37	2.88
あぜのり面が広く段差が高く危険		3.11	3.09	3.14	3.21	3.02	3.06	3.22	2.92
ほ場が分散していて疲れる		2.97	2.92	3.02	2.99	2.94	3.02	3.02	2.88
営農の基礎的な知識を学習する機会がない		2.82	2.82	2.82	2.98	2.85	2.50	2.92	2.66
野菜ケースなど重たいものを持つ農作業が多い		2.79	2.69	2.91	2.69	2.53	3.30	3.01	2.43
農作業技術などの専門情報が得にくい		2.77	2.83	2.69	3.00	2.36	2.89	2.81	2.70
家からほ場までに急な坂が多く大変		2.68	2.63	2.76	2.54	2.83	2.75	2.81	2.47
ほ場への進入路が急な坂になっていてあぶない		2.65	2.65	2.65	2.45	2.79	2.72	2.78	2.43
機械の操作がむずかしくてついていけない		2.49	2.31	2.73	2.30	2.45	2.88	2.66	2.22
農作業で困ったときなどに相談する人がいない		2.49	2.50	2.47	2.55	2.35	2.57	2.54	2.40
大型機械を扱う農作業が多く大変		2.42	2.33	2.55	2.16	2.42	2.91	2.64	2.07
作業場のサイズが自分に合わない		2.38	2.36	2.41	2.51	2.06	2.55	2.50	2.20
作業場が暑く不快		2.33	2.23	2.45	2.38	2.24	2.39	2.40	2.22
機械のスイッチ類がわかりにくい		2.33	2.18	2.52	2.21	2.22	2.71	2.54	1.97
不慣れな作業が多い		2.32	2.31	2.34	2.50	2.20	2.15	2.32	2.33
高いはしごに乗る農作業が多くこわい		2.28	2.22	2.37	2.24	2.14	2.56	2.42	2.07
するどい刃で手を切りそうになることが多い		2.17	2.18	2.15	2.16	2.14	2.29	2.29	1.97

[その他]

研究課題名：女性・高齢者の活動促進による地域活性化効果の解明

中期計画大課題名：農村集落が持つコミュニティ機能の評価手法の開発

予算区分：交付金研究・その他（受託）

研究期間：2004～2005年度

研究担当者：山下 仁、片山千栄、工藤清光

発表論文等：山下 仁・片山千栄・工藤清光，農村の生活環境・生産環境のバリアに対する住民の評価—農村環境のユニバーサルデザインに関する研究—，農村計画論文集，第7集，pp. 241—246，2005。